



山田原第2地区整備後のほ場状況

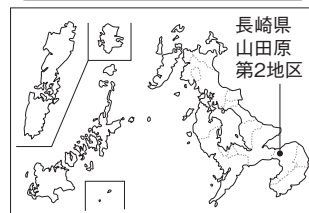
長崎県

やまだばらだいに  
山田原第2地区

山田原第2土地改良区

# 基盤整備を機にブロッコリー中心の営農体系へ転換 高収益作物の作付け拡大で農業所得が大きく向上

位置図



区画整理とかんがい施設の整備で  
機械化や計画的な営農が実現

山田原第2地区がある雲仙市吾妻町は、島原半島の北西部に位置しています。雲仙市の農業産出額は長崎県全体の15%を占め、県内随一の農業地帯として発展してきました。

しかし、近年では、高齢化や後継者不足により、農家数の減少や耕作放棄地の増加が課題となっていました。そこで雲仙市は、農業経営の効率化と安定化を目指し、吾妻町を中心とした約300haの畑地を4団地に分割する事業計画を策定。平成9年度から隣接する山田原地区で畑地帯総合整備事業を実施し、続いて平成24年度から山田原第2地区で同事業に着手しました。本事業は令和3年度に完了しています。

事業実施前の山田原第2地区は、農地が狭小不整形で排水路も未整備な上、畑面が急勾配で降雨による表土流出に悩まされていました。また畑地かんがい施設も未整備だったため、作付けや出荷の時期が天候に左右され、年間を通して計画的な営農が困難でした。

これらの課題を解決するため、区画整理によって区画拡大と畑面勾配を緩やかにして土壌の流出を防ぐと

ともに、畑地かんがい施設を整備。その結果、大型機械の導入や定植作業の機械化が実現し、散水時間の大幅な短縮や計画的なローテーション散水も可能となりました。

ブロッコリーの作付面積は2.8倍  
農業所得が1000万円以上の農家も

営農環境が改善したことにより、山田原第2地区ではブロッコリーを主体とした営農体系への転換を推進し、収益の拡大を図っています。

事業実施前の本地区では、栽培に労力がかかるブロッコリーを生産するのは一部の農家のみでした。しかし、地域農業の衰退を食い止めるには、高収益作物であるブロッコリーの一大産地を目指すべきだと判断。土地改良区と県、市、JAなど関係機関が一体となり、作付けの拡大やブランド化に取り組みしました。平成28年度には、ブロッコリーの増産を見込んで新たな総合出荷場を整備。真空予冷装置や製氷機、自動選別機などを導入し、ほ場から収穫物を運搬する際のコストや出荷調整の時間が大幅に削減されました。

畑地かんがい施設の整備や省力化が進んだことで、年2回や3回の作付けを行う生産者が増加し、山田原

▼▶大型機械の導入



▲▶若手就農者の皆さん

◀小学生への農業体験活動



第2地区の令和4年度のブロッコリーの作付面積は、事業開始当初と比較して2.8倍の76haまで拡大しました。また雲仙市のブロッコリー生産者で構成され、本地区の土地改良区組合員34名が加入する「雲仙ブロッコリー部会」の部会員1戸あたりの作付面積は、平成9年の1.2haから令和4年には3.7haと約3倍に増加。作付面積が10haを超える部会員は6名に上ります。

部会の販売高も右肩上がりです。令和4年度には平成24年度と比べて2.4倍の10億円超えを達成。同じく出荷量は2.2倍の2600tに増加しました。家族経営のブロッコリー専業農家が1000万円以上の農業所得を確保する事例も出てきており、整備事業の効果による収益力向上が顕著になっています。

令和元年度には、雲仙ブロッコリー部会が農林水産祭の園芸部門で天皇杯を受賞。こうした実績も後押しとなり、山田原第2地区はブランド野菜「雲仙ブロッコリー」の一大産地としての地位を確立しつつあります。

### 「儲かる農業」に惹かれて 若い新規就農者や後継者が増加

年間を通じた出荷体制が構築され、儲かる農業を実現した山田原第2地区の事業効果は、後継者の育成・確保にもつながりました。本地区では、事業開始後の平成28年から令和3年の間に8名が新規就農しています。そのうち5名は祖父から孫へ継承する「孫ターン」の形で就農しており、本地区が「魅力ある就農の場」として若い世代を惹きつけていることを示しています。

若い就農者や後継者の増加に伴い、地域の子どもの数も増え、本地区に隣接する小学校の児童数は平成28

年以降の8年間で30名近く増加しました。土地改良区では地元の小学3年生を対象に農業体験を実施するなど、将来の担い手育成を見据えた活動にも力を入れています。

今後は営農のさらなる合理化を進め、儲かる農業を一層推進し、次世代へ明るい未来と活力ある地域農業を継承していくことを目指します。



低温流通施設での水詰めによるブロッコリーの出荷状況

#### 事業概要

事業主体	長崎県
事業名	県営水利施設等保全高度化事業 (畑地帯総合整備事業)
工期	平成24年度～令和3年度
受益面積	畑地 55.4ha
受益戸数	191戸(令和5年4月1日現在)
標準区画規模	事業実施前 7.5a → 完了後 30a
1ha以上の区画合計面積	—
主要工事	区画整理、畑地かんがい
関係土地改良区	山田原第2土地改良区
関係市町村	雲仙市